

# 高松 BONSAI × 女子！！

代表者 入江美聖（経済学部経営システム学科3年）

## 1. 目的と概要

このプロジェクト事業では、全国シェア8割を占めている高松盆栽が、これから次世代を担う若者にあまり関心が持たれていないため、盆栽のイメージとはかけ離れた女子大生という立場から盆栽について情報発信をし、高松盆栽の普及、認知度向上に努めている。昨年度に引き続きのプロジェクトであるが、今年度はプロジェクトの基盤をしっかりと築いていき、今後も長く続けていくことが出来るような活動にしていく。

今年度は県産品である高松盆栽を盛り上げるとともに、新たな活動として盆栽産地の広報活動をし、産業振興のみならず観光振興にも寄与した事業とする。



## 2. 実施期間（実施日）

平成28年6月1日から 平成29年3月31日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

昨年度から継続している、ワークショップや私たちが盆栽を習いに行く「盆栽教室」、SNSでの情報発信を今年度も継続し、より私たち団体の認知度や信頼感が高まり、高松盆栽に触れるきっかけ作りができたのではないかと思います。今年度はメンバーが増えたことにより活動の幅やアイデアも広がった。さらに、ワークショップ後の参加者のアンケートを見直すことにより、私たちが求められていることを常に把握し次の活動へ活かしていくこともできた。このことによりメンバーの意識も低下することがなく活動に取り組めたのではないかと考える。

また、今年度から新たに始めた、盆栽産地の広報活動と英語表記によるSNSの情報発信については、盆栽産地の広報活動は鬼無・国分寺の盆栽組合の方に動画撮影等の相談をさせていただき、台本や構成が整ってきたところである。今年度中に動画を完成させることは難しそうだが、来年度になり、盆栽も緑に色づき始めた頃には動画を完成させ、インターネット上にアップさせることができるのではないかと思います。英語表記による

SNS の情報発信については、メンバーが交代制で日本語と英語で自分の盆栽の紹介をすることで海外の方からコメントをいただいたりと、効果が見られた。さらに、今年度からツイッターやフェイスブックのほかにインスタグラムという新たな SNS を始め、写真を掲載する度に国内外の方からコメントをいただいている。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業が大学に与えた影響は、私たちが責任を持って「香川大学の Bonsai☆Girls Project」として活動することで、私たちの認知が広まるとともに、大学の PR もできたのではないかと思う。実際、イベントなどで、香川大学 Bonsai☆Girls を知っているという方もいらっしや、香川大学生の活動として認知が広がってきていることを実感した。

また、継続プロジェクトとして、数年にわたり活動し、地域の方と直接話をし、地域のニーズを考えた上で鬼無・国分寺の広報活動をしようと取り組んだことで地域の方からも信頼を得られたのではないかと考える。高松に住んでいる人ですら盆栽に触れたことがないという現状を少しでも変え、盆栽を身近に感じてもらえるようにしたことにより、地域の方が地域を見直すきっかけを与えることができたようにも思う。



#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

プロジェクトを通して、座学では経験できないことを学ぶことが出来た。個々人がプロジェクトを運営していくメンバーとして自覚し、責任感やスキル、マナーを身に付けることができた。また地域の方との関わりも多かったため、社会人と接する中での礼儀や学生同士では経験できないコミュニケーションをとることができ、大変刺激のある生活を送ることができた。

さらには昨年度からの引き続きの事業であるため、事業を継続していくことの大変さも学ぶことができた。事業を継続的に行うためには、既存の活動に対して手を抜かずに行い、新たな企画を展開していくことも大切である。昨年度から継続している活動では、地域の方との関わりも深くなるため、さらに信頼を強く築いていく必要がある。あいさつなど日頃の習慣としてしっかりできるよう全員が気を付けることができ、今後も継続していくことができるようにした。

他大学の学生とも交流することが多く、同じ志を持った同年代の学生からの刺激により、プロジェクト活動だけでなく勉学にも意欲的に取り組むことができた。座学で学んだことを活動に活かし、さらには活動で習得した、人の話を聞く力や、チームで何かを成し遂げるために臨機応変に対応する力などを授業のグループワークなどでも発揮する

ことが出来た。

プロジェクト活動があるからこそ、学生生活が充実しているといっても過言ではないほど Bonsai☆Girls の活動を精力的に取り組んだことで、仲間という最高の同志をつくることができ、学生生活がとても有意義なものになった。



(盆栽作家さんに盆栽を習っている様子)



(盆栽づくりワークショップの様子)

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今年度は自分たちがターゲットにしている層に積極的に盆栽のPRができたように思う。昨年度までは毎回のイベント等を着実にやっていくことに精いっぱい、イベント後の反省などを十分に活かしてきれていない部分があった。しかし今年度は、女性や若者が盆栽を見たり、作ったりして楽しめるように可愛く見せる方法を考え、活動に取り入れたり、新たな情報発信の場として若者がよく利用しているInstagramを始めたことにより、より私たちの活動や盆栽の認知につながった。またSNSを利用した情報発信では英語での投稿を心がけ、海外の方にも知っていただけるよう工夫したことにより、コメントをいただく機会も増えた。県外での活動回数も増え、リピーターのお客さんも増やすことができた。昨年度からの引き続きの活動を見直し、工夫することができたの

は、今後プロジェクトを継続していくうえでの大切な経験になった。

しかし今年度新たな計画として予定していた盆栽産地の広報活動であるが、まだ準備の段階で実現させることができていない。具体的には、盆栽産地を紹介する映像を撮影し動画配信することである。今現在、動画の構成を考え機材の調達をしており、年度末、来年度に撮影をし、配信に至る予定である。

今後は、動画配信を積極的に行うとともに、今年度ワークショップを通して自分たちが勉強不足だと感じたことを解決するため盆栽作家さんに積極的に盆栽を習っていきたい。今年度のプロジェクト内の目標であった、プロジェクトの基盤をしっかりとさせていき、活動の範囲を広げていくことは達成できたように感じる。来年度以降も継続して取り組み、自分たちなりに盆栽 PR に努めていきたい。

## 7. 実施メンバー

代表者	入江 美聖	(経済学部 3年)		
副代表	宮谷 亜香里	(経済学部 3年)	角野 真優奈	(法学部 2年)
	杉山 美栄	(経済学部 3年)	杉田 茉央	(法学部 2年)
	前田 遥香	(経済学部 2年)	井上 七海	(経済学部 1年)
	川本 和季	(経済学部 2年)	伊藤 里歩	(経済学部 1年)
	静 輝美子	(経済学部 2年)	十亀 稔理	(経済学部 1年)
	竹本 しおり	(経済学部 2年)	尾山 絢菜	(経済学部 1年)
	高森 日菜子	(経済学部 2年)	首藤 沙希	(経済学部 1年)
	上林 窓桜子	(経済学部 2年)	細川 未奈	(経済学部 1年)